

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400267		
法人名	社会福祉法人 阿育会		
事業所名	グループホーム じゅらく		
所在地	千葉県香取市佐原木323-2		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	平成30年4月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ◦個々のニーズに合わせた支援 ◦ベランダの活用、お茶や食事をしたり、日光浴に活用する以外に避難場所でもあるため、年に2回程度避難訓練を行う。 ◦花や緑をたくさん置いている。 ◦外出支援、月に一度外出、年2回はやや遠方の遠足を行っている。 ◦犬や猫と一緒に暮らしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家族会を防災訓練の日に合わせて、家族や近隣住民に災害時に利用者誘導にかかる時間を見てもらうことにより、協力体制を整える努力をしている。また、年に2回の遠足やお弁当を持っての花見や散歩などを頻回に行うことにより、他者との交流を多く生活に楽しみを生み出している。施設長が看護師である為看取りに対しても研修をし、より良い最期を迎える為に取り組み、他の利用者にも死に対しても嫌悪がないように取り組みがなされている。デッキに花や木を植えることで、日常の中でもいつでも季節が感じられるように工夫されている。犬・猫との生活にて面倒を見るという心も大切にしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも目の届くよう 理念をリビングの壁にかけてある。	理念はリビングに掲げ、職員会議の月1回でも話し合う機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常とはいかないが、町内で催されている行事や、町内清掃等に参加交流している。	地域の納涼祭、花見に参加し町内会にも加入している。回覧板は利用者と一緒に散歩がてら持っていき、地域との交流を図る機会を増やすようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で毎回テーマを1つ決め、認知症や看取りについての理解に務めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者と情報、意見の交換をし、そこで話合ったことをミーティングで話し合うなどしてサービスの向上に活かしている。	三ヶ月に一度開催し、家族の方も参加してもらっている。身体拘束の適正委員会を行っている。年2回の家族会にも地域の方にも参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会等に定期的に参加し、情報交換したり、行政のサービスなどで不明な点を相談しに行ったりするなど協力関係を築いている。	連絡会には定期的に参加し、行政サービスの利用などでは連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束については、内部研修と外部研修にて徹底を図っているが、現場などで出てしまったときはお互いに注意できる環境である。近隣の方も適正委員会に参加してもらい、常に意識している。	研修を行った場合や、行った記録などの書類の整備が必要です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部の研修に参加し、防止の徹底に努めている。	/	/

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は成年後見人制度を活用している方がいないので支援していないが、以前は支援していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解納得して頂いている。契約書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回(半年に一度)の家族会の時に面接や運営推進会議を開き、運営に反映させている。	家族などの意見は聞くようにし、対応を心掛けている。苦情等は今までは出ていない。	書類の整備を望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員参加のミーティングを月に1回行い、反映させている。	経営陣との合同ミーティングがあり、そこでも意見はでている。すべての意見は通らないが、反映されている部分もある。	ミーティング時の書類の管理が不十分であるで、改善が必要である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように意見交換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークが出来ているので勉強会交流会をして活動が向上に結び付くよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して頂けるよう要望をよく聞き、受けとめる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して頂けるよう要望をよく聞き、受けとめる努力をしている。遠方の家族とは電話やメールのやり取りもして信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームなので主に入所の為の相談ですが対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の能力、希望に応じ、出来る事はして頂いて、お互いに支え合うような環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠足や行事等に家族をお誘いし、一緒に参加して頂いたり、家族の協力の元、自宅への帰省や施設での宿泊などの支援も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方がデイサービスに来ている時に1Fと2Fのスタッフと協力しながら会える様支援をしたり、自宅への帰宅の支援を行っています。	デイサービス利用者や交流したり、面会の方も多く、手紙なども届いている。内容によっては、出かけている。外泊の支援も行い、施設内の装飾など定期的に知り合いの方が交換に来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがお客様の個性を把握し、孤立することなく生活できるように支援する。会話の間にスタッフが入りやり取りをスムーズにし、関わり合いを持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人が亡くなるまで入所されていることがほとんどだが、治療のために退所された方にどんな病院へ行けばよいかなど相談を受けたり、アドバイスもし、退所後のフォローも行いました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に以前からの状況を伺い、現在の暮らし方を考慮しながら意向に添えるよう支援している。	利用者の生活歴を記入してもらい、家族とのコミュニケーションを取りながら、今までの生活を大切にしている。時には席の考慮などしたり、部屋に遊びに行き馴染みを作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員の気付きや本人の言葉、表情の中から思いや今までの生活ぶりを探り、日々の生活ぶりをスタッフが観察し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主に日誌の記録を中心に個々の状態を引き継ぎながらスタッフの共通理解を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ、ナース、家族より情報を集め、ミーティングにて家族の意向を踏まえながら課題とケアのアイデアと工夫を話し合う。本人と家族に介護計画を説明し了承を得る。	毎月のミーティングで職員で話し合い、計画の見直しをおこなっている。評価の部分は現在改善中である。	評価の部分を改善を、早く望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌に個人記録を記入し、当日のスタッフが申し送り、スタッフ全員が目を通し情報を共有。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人で隣接するデイサービスからの来訪があったり、逆に会いに行ったり、レクに参加できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。状態悪化、急変が生じた場合は理事長である看護師長に連絡する。内科以外の科へは家族に受診をお願いしているが、それができない場合は付き添いする。	かかりつけ医は本人と家族の要望を聞き対応している。介護タクシーや家族の付き添いなどにて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に巡回してくるので日常的に健康管理の相談ができ、医療連携の支援も充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会の時の面談や普段の訪問の際にも重度化や終末期について話し合い、事業所でできる事を十分説明している。	看取りを行っており、研修も行っている。施設内になる和室では家族も一緒にいられるようにしてある。利用者にも声をかけ、亡くなった方との最後を大切にしている。職員のメンタル部分も常に気にかけて声掛けしてもらえる環境である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、スタッフ全員が熟知するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の方も参加したり、ご家族が参加して避難訓練を行う。地域の方々も避難の仕方を見てもらい、協力体制を築いていけている。	訓練を家族会と同じ日にするようにし、夜勤の現状などを見てもらう工夫をしている。実際に見てもらうことにより地域のかたの協力体制も築けている。備蓄・防災頭巾の用意はある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書類は鍵のかかる書庫へ保管している。自尊心を傷つけるような言葉は使わない否定しない対応を基本としている。	お風呂・トイレなどの時は自然な声かけを心掛けています。利用者の呼び方は堅苦しいものではなく、地域性に合ったようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	感情表現、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の取り決めはない。コミュニケーションを大切にして、発言の少ない方とは特にコミュニケーションを取るよう心がけ、気持ちを引き出せるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧する手伝いをしたり、服を一緒に選んだり、買い物や要請があれば一緒に行くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じたお手伝いして頂いたり、献立も一緒に考えたりする。外食の希望があれば時々外食も。	食事は季節の物をしようしたり、おやつは手作りしたりしている。食器も季節のものにしたり、茶碗・お椀・箸・カップ等は自分の物にし、職員も同じものを同じ食卓で食べるようにしている。	現在の状態より、もっと楽しむ工夫はないか？など考え、より楽しめるようにする工夫を望みます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じておかゆ、きざみ食を作る。食事、水分摂取量が減ってきた時など変化があったときはケアノートを作り記録する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着している方、義歯の無い方など状態に応じ清潔保持の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方以外は排泄の表を作り、パターンを把握。日中はトイレ誘導する。さりげなく・・・を心がけている。	排泄表で排泄の把握は行い、トイレ誘導でパットを濡らさないようにし、本人の自信をつけられるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を作成して予防のための水分摂取、運動への働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に2日に一度。希望があれば毎日。入りたくない日は無理強いせず、本人の希望を取り入れている。	利用者の要望で臨機応変に対応できるようにし、ゆず、菖蒲湯など季節の物も取り入れ、入浴剤も使用している。入浴時間は職員とのコミュニケーションの時間ととらえ一人一人にゆっくり時間をかけるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間運動する様心がけたり、皆さんそれぞれ気に入っている寝具で眠って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の理解と保管場所、情報書の確認と症状の悪化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしゃれを楽しむ。歌を聞きに行く歌う。買い物に行く。などそれぞれ支援している。軽作業等の役割があると嬉しいようである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食、散歩、買い物、受診など日常的に支援している。町内の行事に積極的に参加するうちに顔なじみになり、町内の方が車いすを押してくれたり、お手伝いをしてもらえる様になった。	年に2回の遠足を行ったり、定期的に手作り弁当をもち出かける機会を多く作っている。町内の行事にも積極的に参加し地域の方とも馴染みの関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら支払する方もいる。管理が難しい方も外出時や買い物の際は一緒に必要な金額を財布から出すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や観葉植物を置いたり、季節の花を生けたりしている。外出した時の写真などを壁に飾ってある。	掃除がされており施設内で犬、猫を飼っているが、匂いなどもなく換気が良くされていた。犬、猫は利用者にも受け入れられている。花が飾られていたりデッキには花や木が植えられ、季節が感じられた。外出時の写真も飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファや食堂で談話したり、和室の利用、テラスでの日光浴やサロンから外を眺めるなど、自由にどこでも出入りできるようにしている。居室へ戻るのも自由です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には持ち込み自由なので自宅にいた時の馴染みのものを使っていたらいい。	居室の物は馴染みの物を持ってきてもらい使っている。掃除は自分で行う方もいるが、職員が毎朝行うようにしている。ドアなどの掲示物も本人と相談し貼ったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗顔、洗面、排泄など居室にトイレ、洗面台が付いているのでそれを活かしている。押し入れやタンスの衣類も自由に着替えたり、整理したりしてもらっている。		